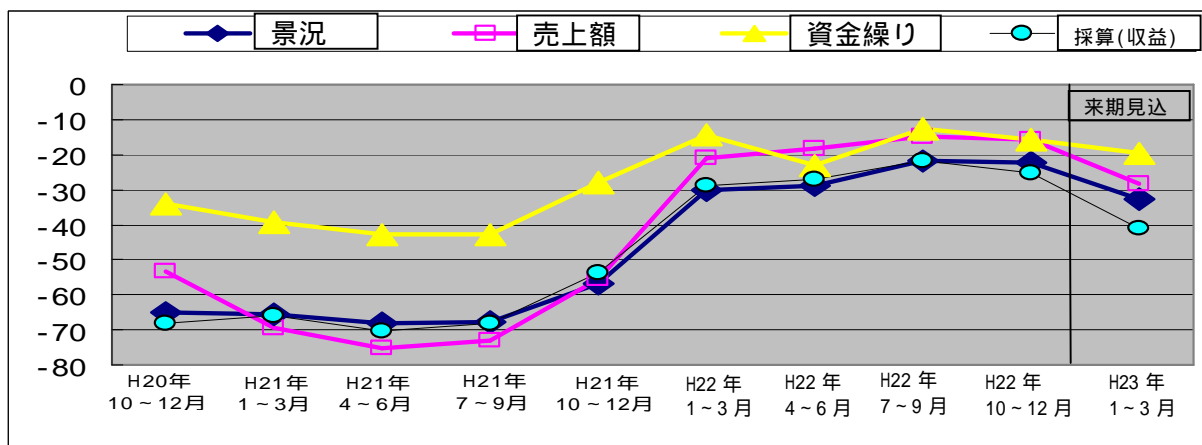


# 岡崎市内景況調査結果 (平成22年10～12月期分)

岡崎市内の今期(平成22年10～12月)の景況判断DIは、22.1ポイントとなり、前期(22.0)に比べてほぼ横ばいであった。

来期(平成23年1～3月)の先行き見通しについては、景況が32.8で、10.7ポイント悪化。全ての項目で悪化しており、国内外の経済情勢が不透明な部分が少なくなく景気回復傾向がさらに鈍化するとの見方が強いことが分かる。



1. 調査対象 (1)対象企業数 本所各部会役員・幹事事業所 468企業  
(2)回答企業数 有効回答 176企業(回答率37.6%)

2. 調査対象時期(平成22年10～12月期)
  - (1)前年同期(平成22年10～12月)と比べた今期の状況
  - (2)今期と比べた来期(平成23年1～3月)の先行き見通し

3. 調査時点 平成22年12月21日～平成23年1月7日

4. 調査方法 ファクシミリによるアンケート方式

5. 有効回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比
製造業	59	33.5%
建設業	37	21.0%
小売・卸売業	42	23.9%
サービス業	38	21.6%
合計	176	100.0%

## 6 その他

本報告書中のDIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のDIは、 $30 - 20 = 10$ となる。

また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

## 市内の景況全体の概要

岡崎市内の今期(平成22年10～12月)の景況判断DIは、22.1ポイントとなり、前期(22.0)に比べてほぼ横ばいであった。前期予想は10.7ポイント悪化の予想をしていたが、予想より悪化幅は下回った結果となった。

業種別に見ると景況感は、製造業では自動車部品関連では、エコカー補助金終了に伴い、国内需要の減少や円高による海外生産シフトによる受注が減少したため、景況感が悪化した。

サービス業もほぼ横ばいであったが、建設、小売業は厳しい状況ではあるが好転した。業種別の経営課題のトップは、建設業では「競争の激化」、それ以外の業種では「需要の停滞」であった。

来期(平成23年1～3月)の先行き見通しについては、景況が32.8で、10.7ポイント悪化。全ての項目で悪化しており、国内外の経済情勢が不透明な部分が少なくなく景気回復傾向がさらに鈍化するとの見方が強いことが分かる。

### 【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H22.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.1-3月期)
景況	22.0	0.1	22.1	10.7	32.8
売上額	15.5	0.4	15.9	12.5	28.4
資金繰り	12.5	3.4	15.9	3.9	19.8
採算(収益)	22.0	3.5	25.5	15.4	40.9

売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

## 業種別の概要

### (1) 製造業

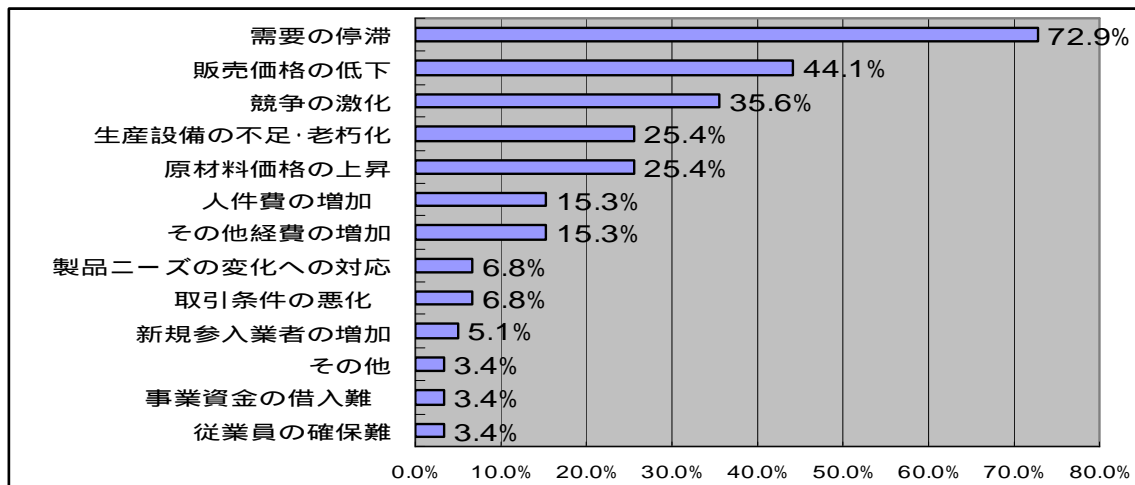
景況は 17.0 で、前期(0)に比べて、17ポイントの悪化。前期の予想 29.0 に対し、悪化幅は予想を下回っているが、国内需要の減少による減産や車種・モデルチェンジの減少、また円高による海外生産シフトが影響しているとみられる。

来期の景況は 22.0 (5ポイント悪化)。売上額、収益は下がるが、原料価格が低下するとみており、景況感は横ばいもしくはやや悪化するとみている。

#### 【データ：製造業】

	前年同期比(前期) (H22.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.1-3月期)
景況	0	17.0	17.0	5.0	22.0
売上額	15.6	17.6	2.0	17.0	19.0
原材料仕入価格	28.9	8.4	37.3	11.4	25.9
製品在庫	2.0	4.0	6.0	1.0	7.0
資金繰り	11.1	16.1	5.0	6.0	11.0
採算(収益)	8.9	25.9	17.0	20.0	37.0

#### 【経営上の問題点】 複数回答



その他：海外現地調達への激化、2012年よりの急激な落ち込み予想  
製造拠点がどんどん海外へと流れていっている

#### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・我々の業界は縮小する方向に進んでおり、生き残りをかけてやっている(印刷)
- ・親企業の新車開発が少なく、あっても海外生産にシフト。国内生産車種も減少するため、生産量・代替車(モデルチェンジ)の減少により売上がジリジリ減少、将来不安あり(コルットの代替はタイにて低価格、世界戦略車として2012年より開発される)(自動車部品製造)
- ・生産が海外に移行し、仕事量が減少している(装備品製造)
- ・期中の中途採用を実施しているが、人材の確保が出来ない(繊維)
- ・輸入手袋・再生糸・純綿系の極端な値上げと品不足・紡績工場・問屋の廃業に加え不必要な競争の激化は、種々価格の上昇を招き、顧客ニーズの変化・要求に対応まならず、市場の混乱を招きかねない。需要の落ち込み状況は変わる率がなく、一時的な中国からの品物(手袋・糸類)の高騰と入荷不足の影響の変化も来年三月にピーク?五月半ばにはその反動で難局を迎えるのか...(繊維)
- ・わが道を行く(初心の目標、人に負けない商品。安売りしない。お客様の喜ぶ顔を見ながら商売をしたい)(食品)

## (2)建設業

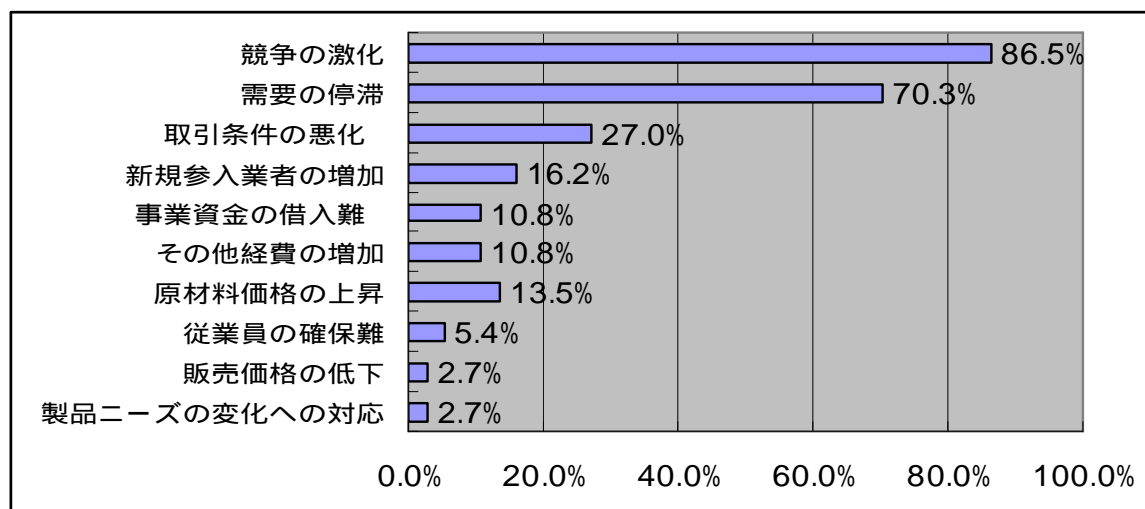
景況DIは 54.1。前期( 68.4)に比べて14.3ポイント改善しており、他業種に比べて依然厳しい結果ではあるものの、前期に比べ仕入価格は上昇したが、他の項目は改善したことから景況感も改善したとみられる。

来期の景況は、 56.8(2.7ポイント悪化)。各項目がほぼ横ばいになっていたが、受注額の減少が最も大きいことから、来期も厳しい経営環境が予想される。

### 【データ：建設業】 複数回答

	前年同期比(前期) (H22.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.1-3月期)
景況	68.4	14.3	54.1	2.7	56.8
完成工事額	65.8	10.2	55.6	5.6	50.0
受注額(新規契約)	57.9	19.0	38.9	15.4	54.3
資材仕入価格	2.7	18.9	16.2	8.1	24.3
資金繰り	52.6	17.5	35.1	8.1	43.2
採算(収益)	68.4	11.6	56.8	8.1	64.9

### 【経営上の問題点】



### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・社員の40歳台の人が少なく、技術指導不足である
- ・若干好転の兆しがあるものの厳しい状況が続く
- ・公共工事発注の減少
- ・全体的に工事量減少に伴う工事価格の低下が見られ企業が縮小する

### (3)小売・卸売業

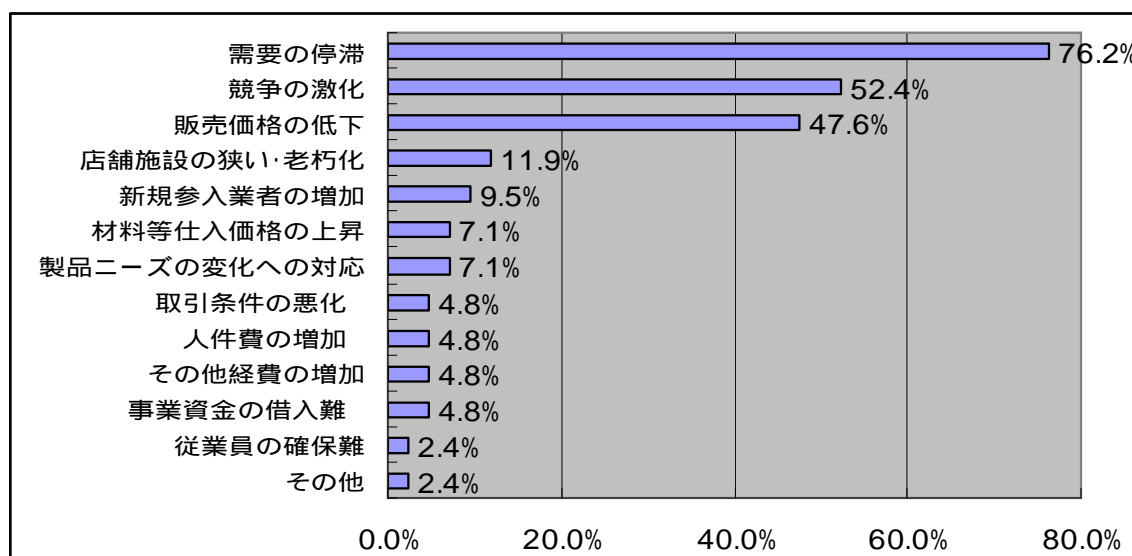
景況は 14.6。前期(24.3)に比べて9.7ポイント改善。前期の予想では、22.2で、予想以上好転した。消費者の節約疲れから年末商戦が好調で売上が6.8ポイント改善し、景況も改善したとみられる。

来期の景況は、35.0(20.4ポイント悪化)。流通・販売形態の変化から売上額、採算が悪化し、依然厳しい状況が続くとみている。

#### 【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H22.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.1-3月期)
景況	24.3	9.7	14.6	20.4	35.0
売上額	21.1	6.8	14.3	5.7	20.0
商品仕入価格	13.5	1.6	11.9	5.6	17.5
商品在庫	23.7	0.1	23.8	8.8	15.0
資金繰り	5.3	6.9	12.2	2.8	15.0
採算(収益)	21.1	0.9	22.0	10.5	32.5

#### 【経営上の問題点】 複数回答



その他：買受人の後継者不足

#### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

・食品流通変化(インターネット市場買、メーカー直販、中央市場よりバイヤーを通して買受ける)。大型店舗、外食産業チェーン店等の一括仕入により、卸売業、仲卸小売等では販売不可品もある。(卸売)

・取引先に対する信用不安がないとは言えない。(小売)

・主力業務からの撤退の方向に向かっている。(卸売)

・外食産業はナショナルチェーンが増え、個人店が厳しさを増す経営者の入れ代わりが激しくそこにニーズが生まれる。(小売)

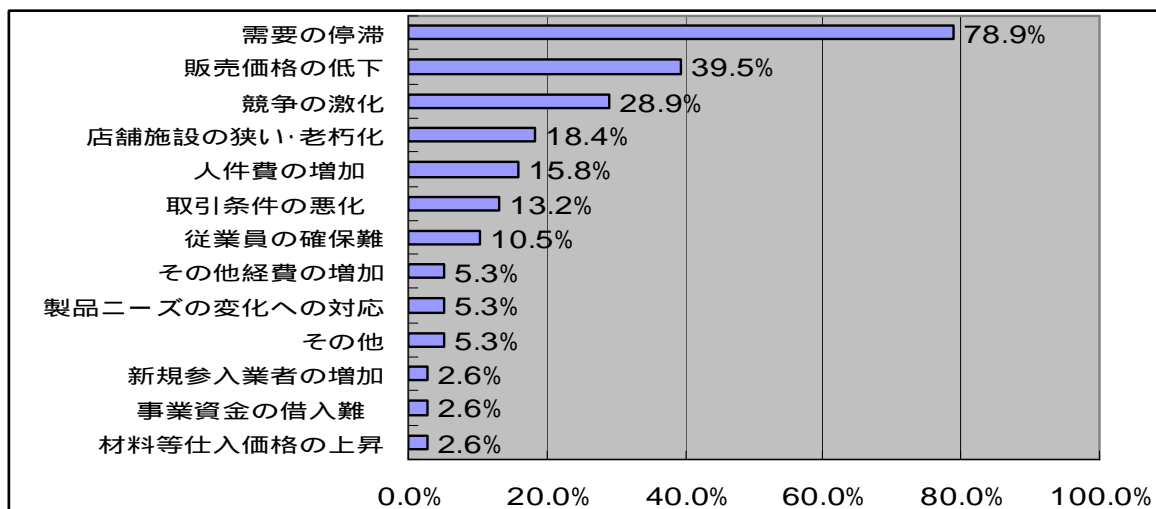
## (4) サービス業

景況は 7.9。前期(4.8)に比べ、3.1ポイント悪化。前期予想では 33.3だったことから、予想ほどの落ち込みはなく、ほぼ横ばいであった。来期の景況は、23.1(15.2ポイント悪化)。売上・採算ともに大幅減を予想してあることから、今期に引き続きさらに経営環境の悪化が懸念される。

### 【データ：サービス業】 複数回答

	前年同期比(前期) (H22.7-9月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.10-12月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H23.1-3月期)
景況	4.8	3.1	7.9	15.2	23.1
売上額	0	2.6	2.6	30.7	33.3
利用客数	7.5	4.9	2.6	15.3	17.9
資金繰り	9.5	9.4	18.9	0.5	18.4
採算(収益)	16.7	3.5	13.2	22.7	35.9

### 【経営上の問題点】



その他：条件により撤退するため、新店への移動あり  
外国為替の変動

### 【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・早くデフレから脱出することを期待しています(不動産)
- ・前期に同じく需要の停滞と競争の激化で非常に厳しい(不動産)
- ・合宿に力を入れたことで好転(自動車学校)
- ・高齢化・若者の車離れ等による免許取得者の激減により業界には悲壮感にも似た空気が満ちております、さらにダンピングや付加サービスによる過当競争が激化しており、体力勝負になっています(自動車学校)
- ・タクシー業界はH23年3月末で各社減車及び休車合計で約10%を実施完了の方向。売上の減少をストップさせるか各社計画の中と思われる(タクシー)
- ・平成22年9月を以って補助金制度の打切により販売台数の低下により売上の減少に利益の減少(自動車販売)
- ・読者の無読化、折込収入の減少が大きく書籍雑誌販売先の顧客減少(新聞販売)